



同窓会主催 記念音楽会 バレエ「白鳥の湖」 1990.9.13

学園近況

斎藤佳子

昨年八月二日のイラク軍のクエート侵攻に端を発した湾岸戦争、バルト諸国の独立へのソヴィエト軍の武力介入等、世界の動きから眼を離すことが出来ない昨今です。海外で活躍していただける同窓会の方々は、どんなにか不安な思いでいられることでしょうか。一刻も早い平和の到来が切望されます。

さて、学校も来たる九月十三日に、創立九十周年を迎えます。この日のための東校舎、西校舎の化粧なおしもすっかり終了し、装いを一変しました。記念事業についての検討も加藤和夫校長、九里廣志副校長を中心に職員生徒一丸となってなされています。例えば、音楽会は節目にふさわしく規模の大きなものをと、記念誌等の発刊、九里祭の同窓会のコーナーの設置、体育祭の保護者の参加等々各方面に渡って語られています。

一方来年に迫ったべにはな国体の指定選手活躍に刺激され、クラブ活動も活性化しています。陸上部の永沼真友美さんのとびうめ国体での四〇〇M入賞、スキー部の上村まりさんの県選手権大会で大回転優勝と輝かしい成績を収めました。先生方も全日本教員ソフトボール選手権大会で山口県まで出かけられました。文化面では、三年の長谷川育子さんの愛鳥週間ポスターコンクールで特選入賞、演劇部、音楽部の県大会入賞と各分野での活動が目立ちました。

二十六回を数える自主研究も、あまりの見事さにこれが高校生の研究、製作かと目を見張られました。今春は三四五名の卒業生が巣立ちます。次代を担う若者として堂々と生きてゆかれるよう祈りたいと思います。

記念音楽会



今年の記念音楽会は、米沢に縁が深い角屋満李子バレエ団の公演になりました。昼の部は生徒、夜の部は同窓生を中心とした約九〇〇名の方々でいっぱいになり、バレエのもつ優雅で高貴な雰囲気魅了されました。今回はその団長であられる角屋さんから原稿を寄せていただきました。

米沢にもバレエスタジオを

米沢公演を終えて

角屋 満李子



会だったと米沢特産の牛肉やいも煮をいただきながら話はずむ。

9月14日(金) 心地よい目ざめ、鈴木氏よりいただいたパンフレットを見ながら、次回にはぜひ米沢周辺を観光したいと心を残しながら、車中の人となる。同窓生の遠藤さんより手作りパンの差し入れにさわやかな気持ちで東京に帰る。

9月12日(休) 11時上野集合、快晴、米沢公演に出発、4時劇場にてリハーサル。スタッフは車で先着、同窓会より果実のジュースの用意あり、私は小学校の同窓生が大勢集まって下さって夕食会、感激する。宿泊の第一ホテルは仲々よく主催者に感謝、明日の舞台のためみんな早く休む。

土地での公演で出演者は少々緊張さみ、昼の部開演、会場から生徒さんたちの若い華かなざわめき、幕が上がる、温かい拍手とどよめき、観客にダンサーが乗せられはりきる。素晴らしいノリ来てよかった。無事昼の部が終わる。各方面から花束が届けられカーテンコールを飾っていた。朝日新聞の記者が楽屋にこれれ顔もほころび、故郷に来た喜びなどを話す。心づくしのおべんとうのごはんが美味しい。続く夜の部も満席、2回公演で疲れぎみの人も打ち上げパーティーではすっかり元気、盛会は何よりの回復薬、スタッフの方々も良い

今回の米沢公演では思いもかけぬ温かいご支援をいただき、私にとつて遠い郷里が急に身近になりうれしい事でした。米沢にもバレエスタジオを作りましようと言う話も出たり、人と人との出会いの素晴らしさを改めて感じました。今回の公演は豊島先生の妹さんに東京で偶然お目にかかった事からはじまったのです。小さな輪が大きな輪になって行きました。皆様も九里学園での出会いをぜひ大切にしてください。同窓会の皆様はじめお世話になりました方々、素晴らしい公演をさせていただきました厚くお礼申し上げます。



先人に 学ぶこと

九里 廣志

暖冬のここ数年に比べ、今年は大雪です。つい先日、瓦を葺き替えた正面校舎のアシントが雪に耐えられず外れ、自転車小屋や昇降口の屋根が壊れるハプニングがありました。夜遅くや日曜日のでき事で、下に生徒がいなかったのは幸いでした。二十五年振りに冬の米沢で過ごす私には、一面の銀世界がとても美しく見えます。でもこのでき事を「これが雪の本当の姿なんだ。恐ろしさを忘れては駄目だぞ」との警告として受け止めました。

消雪道路の出現と呼応してか、最近の町を歩く生徒のようすが私の高校時代のそれと大きく変わりました。以前は保温のきいた服装で歩いていたのに、今はスカートにくるぶし

迄しか無い短い靴、帽子も被らず頭は一杯の雪です。確かに以前の服や靴と比べて保温力是一段と強化されています。でも暖冬とは言えまだまだ寒いこの雪国の生活。余りにも掛け離れたこの実情に、将来母親になろうとする生徒たちを考えると、私は不安が募って仕方ありません。親の心配の言葉を「みんなそうなんだから」と打ち消しの服装でしよう。

アシントの落ちた翌日、〇先生がこんな話をなさいました。「昔の職人は、抜けてはいけない釘は一晚塩水につけてから打ったもんだけどなあ。」先人の知恵を知った日でした。

平成2年度 関東支部同窓会

佐伯雅子 (S30年卒)



落語家の司会でなごやかに

平成二年六月九日(土曜日)同窓会及び米沢女子高校新卒業生関東在住者激励会が上野精養軒で二五〇余名の参加者を得て盛大に開催された。

当日は梅雨のはしりか、お昼頃より小雨が降りだし、開会一時間前には一段と雨足がはげしくなり、上野の森の樹木をすっかり洗い流す様な悪天候に思わず「お願い！神様雨を止めて」とつぶやいた。

さて、定刻四時、美空ひばりの唄「おしようしな」が流れる中、参加者は会場に入る。久方振りにあわせる顔、顔、顔。

いつしか雨は止んで会場は熱気で暑くなる。やはり女性の多い集会は華やかさも一際で心なごむ一時であった。

占部支部長の開会挨拶に始まり、竹田同窓会長、加藤校長の挨拶の後、新卒業生(三七七名)の紹介。そして、新旧校歌合唱(ピアノ伴奏は、鍛冶迪雄先生)、このときは誰もが時を忘れ、少女時代に思いをはせた。

ともすればマンネリになりがちな同窓会、今回は第二部で落語家の三遊亭金太郎師匠(山形県小国出身)に司会を依頼し、福引きを取り入れた試みが効を奏した様に思われる。



佐々木泰子
御夫妻
(S34年卒)



俳句「第一楽章」

佐々木 昭

米沢に転居したのは平成初年の春である。熟年夫婦は長い北海道生活のあと、漸く終の栖を得た想いであった。

折しも羽路は奥の細道三百年行事のさなかである。妻は一念発起、俳句修行を志した。私は曾良の立場である。紅葉の頃、笹野観音で県南大会があり、妻が最高位となった。妻はしきりに恐縮していたが、これを激励賞と受けとめることで漸く心が落ち着いたようである。

最後は全員輪になって「仰げば尊し」、「螢の光」を合唱し和気あいあいのうちに過ぎた二時間であった。

平成も早三年目、過去の経験と新たな知恵を生かした意義ある同窓会の発展を期待致します。

マスコミの取材や俳句会からのお祝いが一段落したのは半月後である。以来、一日一句を目標としているがこれが仲々大変である。山寺立石寺、安久津八幡宮、亀岡文殊堂など先達の懸額を訪ねることがある。私が歴史を想い家内が俳枕を想うときそれは衝撃に近い様相を帯びてくる。妻の俳句は台所派と求道派の中間に位置し、人生派に近いものである。俳句は学習しても良い句が得られるとは限らない。勿論、勉強は必要だろうが、最近の妻はそれは天から授かるものと達観したようである。それはミュージズへの祈りに似たようなものかも知れない。

妻のおかげで私の俳句も第一楽章のさなかである。

元朝や鈴の音 冴へる巫女の舞
雪燈籠重ね着となりて牡丹雪
姉妹に間違へられし春弾む
緋毛氈花舞ふ茶会しびれ耐へ
帰省子の初挨拶大人びく

職場訪問



14町歩を 二軒の共同経営で

下小山田

竹田恵美子さんを訪ねて

(S40年卒)



大寒にしてはおだやかな小雪のちらつく一日、市内下小山田に竹田恵美子(旧姓坂野)さんをお訪ねしました。広々とした茶の間、神棚には昔のお鷹ポッポがずらりと並び昔から代々続いてきたお家だなと思いました。おじいさんやおばあさんにもおあいしました。ご主人はお仕事、高校二年と中学一年の男のお子さんは留守でした。

恵美子さんは昭和四十年卒業、お姉さんを頼りに上京、一緒に生活、事務の仕事に就職され四年間従事されましたが、お姉さんが結婚されると帰郷されました。間もなく農家に嫁がれ馴れない仕事で始めは大変だったとのことでした。十五、六年前二軒で共同農事法人を作り普通のサラリーマンと同じように朝八時半より夕方六時半まで働き月給制で、日曜休みという形で水稲十四町歩、牛十五頭をそれぞれ分担されました。五、六年前からは機械化され農作業も楽しくやれるようになったとのことでした。昔は毎日のように夜十時頃まで仕事をしましたそうです。それも在学中の

私達が
つくる米は
甘みがあり
ます

冬は築沢から母が途中まで踏んでくれた雪道を小一時間位歩き、小野川で七時のバスに乗って通学といった毎日の生活で鍛えられたおかげとのことでした。現在仕事は時間通り終わるし日曜日には家族でスキーに出かけるのが楽しみとのこと、また、ご主人はスキーの指導員とのことでした。毎年夏には田植えが終わってから月山に行かれるとのことでした。田畠には牛糞の堆肥を沢山入れるので虫もわかず野菜は甘味もあり味が全然違うそうです。稲の消毒も普通の半分位とのことでした。農薬を使わない安心して食べられる野菜を子供達に食べさせられることが何よりとおっしゃっていました。消費者は色、形よりも安全な食物を求められるようになれば駄目と言われ考えさせられました。農協婦人部若妻会員の講習会には積極的に参加され、地区活動としての添加物のない味噌、豆腐、石けん作りなどの会にも加わりながら親睦を深められています。

紅花で漬けられたというおいしい沢庵と葉天をこちそうになりました。家の前は広々とした畠、夏なら花や野菜が育っている光景を想像しながら農業に生き甲斐を持っておられる恵美子さんにこれからも頑張ってくださいとを念じおいとまいました。

(S24年卒)
行方絹代 記

同級会が最高の楽しみ

(S20年本科一部卒)

高橋 フミ子

新緑の真只中、平成二年五月二十七日、同級会が開かれました。米沢より七名、関東地区より七名、福島駅で待ち合わせ穴原温泉に向かいました。同級会の参集率はいつも三〇パーセントぐらいですが、同級だった四十五名はみなさん健在です。大東亜戦争中に育った私達には修学旅行の経験もなかったののでこうした同級会が最高の楽しみなのです。

持参の漬物をいただきながら、学徒動員で三年生のときはほとんど授業がなかったことや、米沢航空会社に三交替の勤務の毎日等々、遠くなった青春時代の思い出に浸ります。四十有余年のタイムトンネルは、やがて息子や孫のことであり、延々として果てることありません。わが世極まわり、感慨一入です。



周りのクラスより
おとなしいクラスだった

総会報告

「米寿の集い」の 苦労話が出る

七月二十二日、ホテルサンルート米沢を会場に、午前十一時より、米寿の集い。実行委員会が開かれ、ビデオを見ながら成功した集いの報告を致しました。それぞれのパートで苦労された内輪話などもでて、お互いの労をねぎらいながら、集いの委員会は解散という形になりました。

引き続き、午後一時から、総会が開催されました。百八十名の出席者のもと、加藤和夫校長先生のご挨拶をいただき、議事進行致しました。続いての講演会では、四月から母校の副校長になられた九里廣志先生の「可能性を探る」と題してのお話をお聞き致しました。ソフトな声で、先生のお人柄が伝わってくるような、そんな満ち足りた時間を持つことができました。懇親会は、九里茂三学園長先生のご挨拶をいただき、加藤孝次郎先生の乾杯が始まり、歌や合唱で楽しい時を過ごし、全員が輪になって校歌を合唱して閉会しました。

(事務局)



7.22
ホテルサンルート

御心配をおかけしました、元気です

マザーテレサに一步でも近づきたい

青年海外協力隊

後藤 美智子
(S53年卒)

現在、私はルワンダ内戦のため日本に一時帰国しています。部族争いにまともにも巻き込まれ、実に恐ろしい戦争の体験をしました。私が勤務していた病院は、患者数が四〇人前後で、入院患者の八〇パーセントがマラリアです。私は、主に外来で注射を担当していました。患者は、外国人がめずらしいので窓や隙間から私の行動をのぞき込みます。「見せものじゃない！」と毎日イライラしました。また、「おはよう」「ありがとう」の挨拶もないために私は現地語で書いて注意をよびかけましたがいっこうになおりません。私は憤りが爆発しました。しかし、数日が過ぎ、気がつきました。ここ

は識字率が三十パーセントだったので。このことに気づかないでいた自分がとても情けなく思いました。自分の尺度で物事をみて従わせようとしたことにショックを受けました。同時にマザーテレサがとてつもなく大きく思えました。一步でもいいマザーに近づこうと真剣に思いました。

そんな時期です。一九九〇年十月一日、昼、「戦争だ。」と地元の人があわてだし殺気だったのです。あれよあれよという間に私は村にとり残されてしまったのです。殺されるかも知れない恐れとともにさまざまな感情が入り乱れました。「私は死ぬためにルワンダに来たのではない」と自分に言い続けていました。

こんな中で、コーヒー、砂糖、缶詰などを差し入れてくれた少年がいました。また、情報を伝えてくれた子供連れで裸足の母がいました。ホテルの玄関に列に並べられ一人一人銃をつきつけられました。そのとき青年が私達をかばうように涙を流していました。無抵抗であることをうたったるために、ふいてもふいてもとめどなく流れる涙を。

私は実感しました。「人間は同じなんだ。」と。肌の色が違って話すことばが違って宗教が違って同じ感情を持つ人間だと。

私はこれからも同じ仲間としてみんな平和で意義ある生涯を送れるよう看護活動を通して努力してゆきたいと思いました。



天声人語

弾をかくぐり、九死に一生を得た邦人女性三人の一人、藤美智子さん「これまでこの国でも一番美しい人々が私たちを助けてくれた。恩返しのために、できればと、まっとうな仕事を続けたい。」

朝日新聞 90/10/30
 国連平和協力法の論議。「これまでは親兄弟、妻をばしめ日本国民に危険があれば生命をかけることもあった。決意を込めて、海外派遣した。使命感はますます高まっている。」

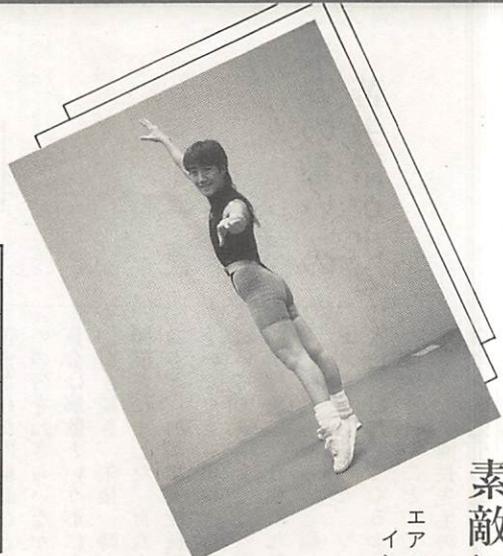
平成2年度・一般会計収支予算書

〈収入の部〉

項目	本年度予算	前年度予算	増減	備考
繰越金	174,139	194,669	△ 20,530	
入会金	260,000	281,000	△ 21,000	新入会員(前年度の卒業生260)
終身会費	1,300,000	1,405,000	△105,000	" (同上)
事業収入	100,000	50,000	50,000	
寄付金収入	60,000	200,000	△140,000	
前受金	2,094,000	1,560,000	534,000	次年度の入会金・終身会費(今年度の卒業生349)
雑収入	11,861	9,331	2,530	利子・その他
合計	4,000,000	3,700,000	300,000	

〈支出の部〉

項目	本年度予算	前年度予算	増減	備考
運営費	1,026,000	410,000	616,000	
事務費	50,000	50,000	0	
通信費	70,000	50,000	20,000	
旅費	210,000	0	210,000	役員・事務局員の出張経費
会議費	420,000	100,000	320,000	米寿実行委員報告会他
人件費	100,000	100,000	0	
慶弔費	70,000	70,000	0	
印刷費	70,000	30,000	40,000	会員証・その他
雑費	36,000	10,000	26,000	
事業費	680,000	1,530,000	△850,000	
総会経費	250,000	1,100,000	△850,000	当日の研修会経費を含む
会報発行費	330,000	330,000	0	編集・印刷・配布経費含む
音楽会経費	0	0	0	
支部活動補助	100,000	100,000	0	
基本金繰入金	0	0	0	
子備費	200,000	200,000	0	
前受金	2,094,000	1,560,000	534,000	次年度の入会金・終身会費(今年度の卒業生349)
合計	4,000,000	3,700,000	300,000	



健康に

素敵に生きる

エアロビックス
インストラクター

中野 はるみ

(S53年卒)



今やフィットネスブームである。なぜならば、科学や技術が発達し、便利な世の中にはなかったものの、楽な生活がひき起こす運動不足病が増加してきたからです。人間は元より動く物であり、頭と体をしよわずに使う事で、健康というものを得るのです。健康になるためには、適度な運動、栄養、休養が必要なのです。偏った使い方、また間違っって使うと、身体にいろいろな障害が起きてくるのです。

めまぐるしく変わる現代の生活において、ストレスをためて発散できず、心身の病気になる、動く事、考える事すらいやになってくる。大人だけでなく、子供達もその影響をおおいに受けているのです。

現在私は、高校の体育の授業を、手伝わせていただいています。姿勢の悪い生徒さん

が目につきます。中でも、心身のバランスを失って、元気がない生徒さんを見ると、淋しくなってしまう。

世の中の人々、すべてが健康に素敵に生きてほしい。これからの長い人生、堂々と胸を張って、街の中を私達と共に闊歩してほしいものです。

スタジオX1 (021-6655)



バスケットの久先生ご逝去

バスケット顧問であられました伊東久先生が昨年八月九日、病氣により、五十三歳という若さで逝去されました。伊東先生は、昭和三十六年に本校に赴任されてから、三十年間、バスケット顧問として、バスケットボールをこよなく愛し、御指導下さいました。伊東先生への迫力ある『バカヤロー』の声援も、もう二度と聞かれなくなりました。

四年前の昭和六十二年に、バスケット顧問二十五周年ということでOG会でお祝いをした時、まだまだ先生には頑張って頂くようお願いしたいところだったので……。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

(齋藤久美子 記)

編集後記

▲なるべく多くの同窓生の方々から原稿を寄せていただき、会としての広がりや心がけました。御意見、御要望をお寄せ下さい。

▲母校は、今年九十周年を迎えます。催し物等に参加の呼びかけがありましたら、どうか御協力をお願いします。